

# fure-fure



左上から時計回り  
1・2年生 バスハイク  
(2枚)  
4年生 看護管理実習  
3年生 懇話会

**【重要なお知らせ】** SDGsへの取り組みとして、2026年度からペーパーレス化します。  
広報誌「fure-fure」は毎年7月上旬と翌年2月上旬に、看護学部ホームページに掲載しています。  
掲載箇所は、QRコードよりアクセスください。これからも看護学部のフェイスブックやインスタグラムと共に、広報を楽しみにお待ちしております。



高知県立大学 看護学部  
Faculty of Nursing University of Kochi

fure-fure  
QRコード





### 青木 早苗 教授【総合看護学・がん看護学】

これまで『がん予防から看取りまで「その人らしく生きる」を支え続ける看護』を目指し、実践・教育・研究に取り組んでまいりました。7年ぶりに高知に戻り、これまでの経験を地域に活かせることを嬉しく思います。学生の皆さんとは“共育”の精神で支え合い、ともに学び合える場を創っていきたくと考えています。どうぞ気軽に研究室を訪ねてください。よろしくお願いいたします。



### 青木 良枝 助教【母性・助産看護学】

高知県出身です。現在は、6月より4回生の助産コースの学生さんと一緒に実習に励んでいます。大学に着任するまでは、産婦人科領域での勤務に縁があり、看護師経験と助産師経験があります。臨床では、対象者の思いもよらない病気や治療を受け入れ適応していく姿や、出産育児を通して母親になっていく、女性の持つしなやかな強さを看護の中で知り、実践を行ってまいりました。今後は、臨床現場で培った経験を活かし、学生さんの目線に立ち、思考が深まる講義や実習を考えていきたいと思っています。



### 岩井 由里 助教【地域看護学】

高知生まれ高知育ち、本学を卒業した後もずっと高知県内で養護教諭として働いてきました。地域看護学のフィールドは対象者さんの生活の場です。保健師や養護教諭はその場に共に居ながら、ケアを提供できることが大きな魅力です。いつも潤沢に必要な物品や環境が整っているわけではないけれど、自分たちの気づきや閃きでケアを開発していけるやりがいがあります。そんな地域看護の魅力を授業や実習を通して伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



### 小松原 大典 助教【精神看護学】

高知県立大学看護学部の皆様、はじめまして。学業はもちろん重要ですが、大学時代にしか経験できない貴重な機会も数多くあります。多様な人々との出会いや交流を通じて、かけがえのない体験を積み重ねていただきたいと願っています。そして皆さんには、未来を切り拓く豊かな心と深い思考力を身につけ、これからの社会を担う人材として成長していただきたいと思っています。



### 小味 慶子 助教【地域看護学】

病院で看護師、健診機関や行政機関で保健師をしていました。この3か月、講義や演習に参加し、学生の皆さんが自身での学びを深めるとともに、グループでの話し合いなどを通じて、いろいろな意見や価値観に触れ、学びを深めていることが印象的です。学生生活は授業、演習、実習などで、しんどいなと感じる時も、みんなで支えあうことで達成できることもあります。そして、いろいろな方々と話し、多様な意見や価値観に触れ、自分自身の考えをより深めてもらえたらと思います。



### 島本 亮 教授【基礎医学】

5月から看護学部に加わりました島本です。  
これまで大学病院で呼吸器外科医として働きつつ、医学部の学生とも関わってきました。  
これからは看護師を目指す学生の皆さんが、医学の知識や現場での経験を積みながら、自信を持って成長出来る様、見守り支えていきたいと思っています。  
どうぞ宜しくお願い致します。



### 佃 勇輝 助教【小児看護学】

私は高知県立大学で最初の男子学生として看護の道を歩み始め、高知県内の病院において小児科病棟や救命救急センターでの臨床経験を積み、4月から母校の小児看護学領域で教育・研究に携わることとなりました。講義や実習のなかで学生の皆さんと関わらせていただきながら、私からお伝えできることはすべてお伝えし、また学生の皆さんからもたくさん刺激をもらいながら、自分自身さらに成長していければと思っています。大学内で見かけた際に気軽に声をかけてください。

## 各学年の大学生活



### 1回生 — 学年担当 田井 田代 竹中



1回生は教養教育科目と看護の基礎科目を中心に学びます。看護の基礎科目では患者さんの療養生活を支える知識や技術を学び、入学後に購入した実習服を身につけ食生活の援助や療養環境を整える援助などの演習に取り組みました。また、患者さんの健康を守る看護職となるためには、まずは自分自身の健康管理が大切なため、大学ではヘルスパポートという健康管理手帳を活用しています。6月には保健委員の教員から4月に受けた健康診断結果の見方と、夏季に向けて熱中症予防対策などの健康管理方法の講義を受けたあと、母子健康手帳と健康診断結果をもとに健康状態や感染症罹患歴、ワクチン接種歴など自分自身の健康の歴史を振り返りました。さらに、今後の看護実習に備え、麻疹やB型肝炎など自分の感染症抗体価をチェックして、必要なワクチンの接種計画を立てました。後期にはふれあい看護実習に臨みます。看護者として、対象となる相手を理解し、生き方や価値観を尊重する姿勢を身につけることができるよう、教員一同で支援しています。

### 2回生 — 学年担当 村川 小澤 徳岡

2回生は、4月に「新入生のつどい」で、龍河洞へのバスハイクを企画、開催しました。洞窟内は、アップダウンの激しい道のりでしたが、新入生や、新任の教員と一緒に、和気あいあいと散策することができました。数か月前から委員を中心に、新入生同士が交流を深めることができるよう、試行錯誤をしながら準備していました。新入生の笑顔がたくさん見られたことで、達成感を得た様子です。2回生の講義や演習は、より専門性が高くなってきています。治療援助論では、これまでの知識をふまえ、患者さんにとって安全・安心なケアが提供できることを目指し、技術の習得に取り組んでいます。昨年から出来た「Nursing Skills Training Room」を活用し、酸素吸入などの援助技術を、友人同士で熱心に自己学習し、頑張っています。8月からは、いよいよ病院での看護基盤実習が始まります。暑い日々が続いていますが、体調管理をしながら、学習に取り組んでいます。



### 3回生 — 学年担当 畠山 岩崎 塩見



2回生の12月から企画した「4学年交流会」を4月21日に行いました。看護学部4学年を対象とした大きな企画・運営でしたが、2回生の運営委員を中心に皆で協力しながら、4学年が楽しく交流することができました。また、6月には3回生の交流を深めるための懇話会でビンゴゲームを行いました。懇話会委員がギフトカードにかわいい手書きの絵を描いてくれるなど、とても心温まるプレゼントが用意されており、景品獲得に向けて皆で盛り上がることができました。一方で3回生になると専門科目が一段と難しくなっており、課題に追われる日々も続いています。看護の対象者の心身の状態だけではなく、対象者を全人的に捉え看護に繋げていくために学んでいっています。また、10月からは「領域看護実習」が始まってきます。今まで学んできた知識・技術を基に、今後それぞれの領域の特性を捉えて学びを深めていきます。

### 4回生 — 学年担当 瓜生 山中 池内 田中

4回生は、最終学年となり、授業・実習、看護研究などの学業だけでなく、将来に向けて就職・進学活動と様々な課題に取り組んでいます。まず、6月末からは家族看護実習に始まり、総合看護実習Ⅰ・Ⅱ、看護管理実習と続いていきます。家族看護実習（写真）では、健康問題をもつ家族員とともに病と闘ってこられたご家族の生の体験や、専門看護師の方の家族看護実践を聞かせていただき、必要な看護援助を検討してロールプレイで実践してみることで学びを深めました。また、看護研究では、自分達で課題発見し、探求するというこれまでとは異なるアプローチの学習をしています。これまで身につけた知識や力を活用し、試行錯誤しながら一步一步進めています。加えて、国家試験（2026年2月）対策として、模試を受験し、不得意科目を明らかにして学習に取り組んでいます。一人ひとりが将来のキャリアを描き、どこに就職するか・進学するのか悩みながらも前進しています。





令和4年度から始まった新カリキュラムの下で本年度から4年次に総合看護実習Ⅱが行われます。

総合看護実習Ⅱの具体的な目標は、データを分析し健康問題を把握し、科学的根拠を持って対策を立案し問題解決を行える能力の基礎を身につけることです。この目標を達成すべく、学生は従来の看護実習とは異なる様々な新しいことに挑戦します。具体的には、集団を対象に健康問題をデータから把握して、起きている健康問題の原因となるものは何かという仮説を立てデータから検討し、エビデンスに基づく問題解決策を考え提案することに挑戦します。

この一連の挑戦には、看護学のみならず医学、疫学、統計学などといった様々な学問の知識や技術が必要となり、これらを融合して取り組む姿勢が必要となります。さらに、問題解決を円滑かつ迅速に行うためにAIの利活用も必要となります。つまりこの実習は、これまで大学で学んできたことを学際的に総動員して取り組む実習となります。最近日常的にデータサイエンスやAIという言葉を目にするようになり、多くのところでこれらが利活用されています。データサイエンスやAIには、様々な問題や課題がまだありますが、人々の生活を豊かにするためのものとして今後ますます利活用されていくことが予想されます。



看護（学）においてもデータサイエンスやAIの利活用は必須となるといえます。このため、新しい看護師像としてデータサイエンスやAIを利活用できる看護師が求められる時代がやってきます。この様な時代を迎えた時に、本学の卒業生たちが先頭に立ち新しい看護（学）を切り拓いていくための力に本実習での体験が少しでも役に立てばと思い、担当教員達は学生達のこの挑戦と学びを成功させるために様々な準備をしています。

この総合看護実習Ⅱでの挑戦は、全国的にもこれまでにない様々な取り組みを行います。学生と共に新しい実習に取り組むことは大きな冒険かもしれませんが、学生の新しい視点や自身の発見に少しでも役に立つ冒険となるようにしたいと思っています。

## 学生の活動

### 【4学年交流会】 國澤 千聖（3回生）

創立記念日の4月21日、看護学部の1～4回生が参加する4学年交流会を開催しました。

4学年交流会の目的は、学部内で学年を超えて親交を深め、入学間もない1回生が先輩との繋がる機会をもつことです。今年、参加した学生や教員がグループに分かれて教室スタンプラリーとビンゴゲーム、じゃんけん大会を行いました。教室スタンプラリーでは、看護学部の学生がよく使う教室を12部屋ピックアップし、場所や経路を把握してもらうことを意図して実施しました。

実際には、1回生は先輩や教員に場所を案内してもらうだけでなく、先輩との対話をもつきっかけになり、双方にとってよい機会になりました。また、教室スタンプラリーでは、各教室に到着するごとに1～100までの数字が書かれた紙を2枚入手できるようにし、各グループで獲得した24枚の用紙をビンゴの台紙に貼り付け、次のビンゴゲームに活かすことができるように工夫しました。

手作りのビンゴゲームは、豪華景品の影響も受け、最後まで大盛況となりました。ビンゴゲーム終了後は、じゃんけん大会を行い、各サークルの代表によるサークルの紹介と勧誘活動を行い、全体の記念撮影で幕を閉じました。解散する頃には、仲良く談笑したり、履修登録や科目の勉強法などについてやりとりしている1回生と先輩の姿も見られました。

4学年交流会は開催の目的を達成し、大成功を収めました。



[ニュースレターの名前の意味]fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 [fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp](mailto:fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp)